

ニプロセーフタッチキャス

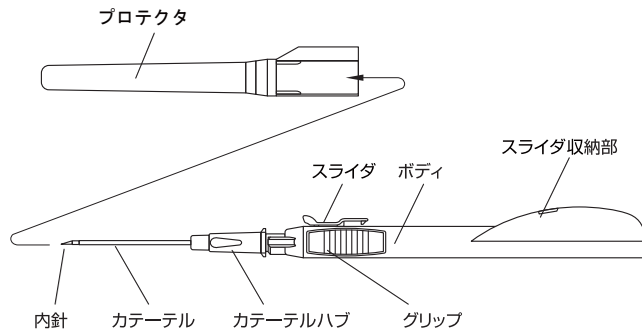
再使用禁止

【禁忌・禁止】 1. 再使用禁止

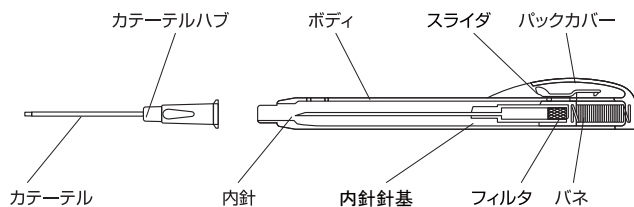
【形状・構造及び原理等】

1. 形状

1) 穿刺時



2) 廃棄時



2. 材質

内針：ステンレス鋼
内針針基：ポリカーボネート
カテーテル：エチレンテトラフルオロエチレン
カテーテルハブ：ポリプロピレン
フィルタ：ポリエチレン

【使用目的又は効果】

本品は滅菌済みであるので、そのまま直ちに使用できる。

【使用方法等】

1. プロテクタを取り除いてください。（図1参照）

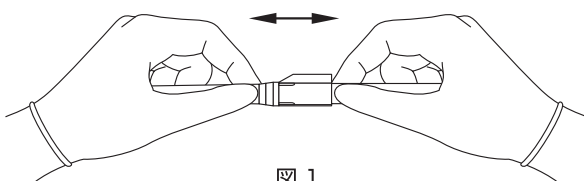


図 1

2. スライダが正しい位置にあることを確認します。（図2参照）

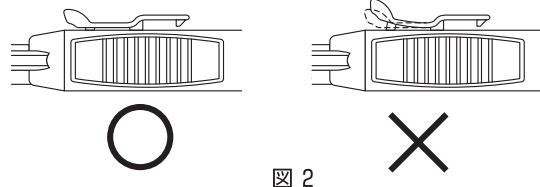


図 2

3. 万一、スライダが上方に浮いている場合はスライダを上から押さえてください。（図3参照）

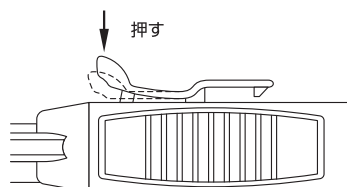


図 3

4. 内針とカテーテルが正しい位置で組み合わさっていることを確認してください。（図4参照）

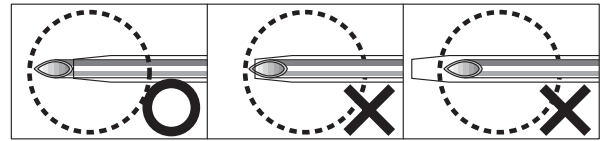


図 4

5. スライド面を上方にして、消毒した穿刺部位に穿刺してください。（図5参照）

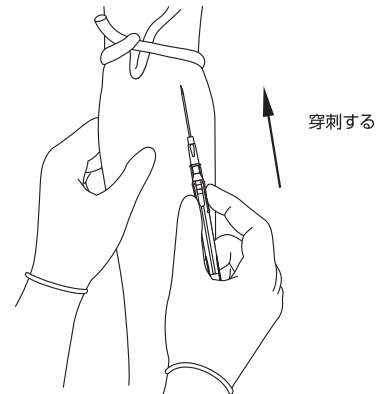


図 5

6. 穿刺後、カテーテルの先端が血管内に入り、血管を確保すると血液の逆流（フラッシュバック）が認められます。（図6参照）

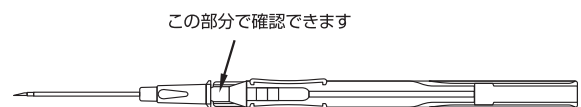


図 6

7. フラッシュバックが認められたら内針が動かないようボディを固定し、カテーテルを必要な深さまで進めてください。（図7参照）

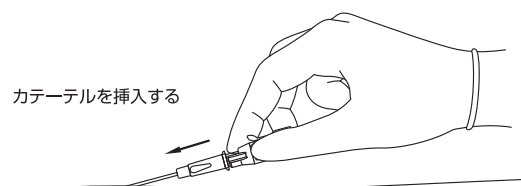
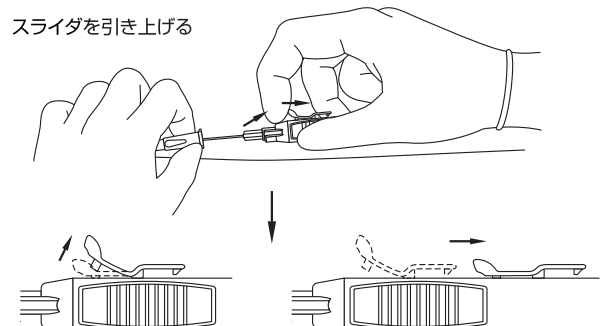


図 7

8. カテーテルを指で固定し、カテーテルが動かない状態にし、スライダを上方へ引き上げてください。スライダを上方へ引き上げると内針がボディ内部へ移動します。この時「カシャ」と音がすれば完全に収納されます。（図8参照）



スライダの動き

図 8

9. 留置した本品に輸液セット等を接続して、テープで固定します。
10. 内針をボディ内に収納した後は、グリップを持ち、廃棄容器に廃棄してください。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. 製品からプロテクタを取り除く際は、真っ直ぐ引き抜いてください。斜めに引き抜いた場合、内針先端を傷めるおそれがあります。
2. カテーテルが内針先端より出ている場合は使用しないでください。（図4参照）
3. 穿刺部位に穿刺する際は、スライダには絶対に触れないでください。
4. 血管の確保がスムーズに行えず、再度、穿刺し直す場合は、本品を新しいものと交換してから行ってください。
5. スライダを引き上げ内針をボディに収納する際には、グリップ以外を握らないでください。また、グリップを強く握りすぎるとボディ内が変形してスライダが移動できず、誤刺防止機能が作動しない場合があります。（図9参照）

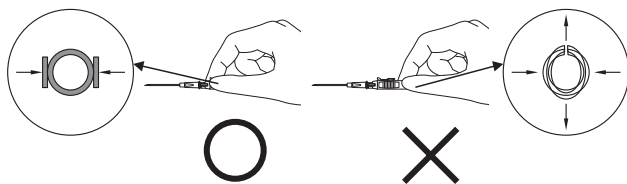


図 9

6. スライダを引き上げ内針をボディに収納する際には、カテーテルと内針が一直線になるようにしてください。傾いていると内針を収納する際に、内針針先でカテーテルを破損するおそれがあります。また収納する際に、内針で指先等を傷つけないよう注意してください。
7. 内針をボディに収納した後は、内針先端が完全にボディ内に収納されているか確認してください。万一、収納されず内針先端が出てくる場合は、内針で指先等を傷つけないよう注意してすみやかに廃棄容器に廃棄してください。
8. カテーテルから一度抜き取った内針は絶対にカテーテル内に挿入しないでください。また、内針を途中まで引き抜いた状態で、カテーテル内では決して内針を前後に移動させないでください。〔カテーテル内面を傷つけ、内針の貫通等によってカテーテル破損が発生し、破片が患者の体内に遺残するおそれがあります。〕（図10参照）

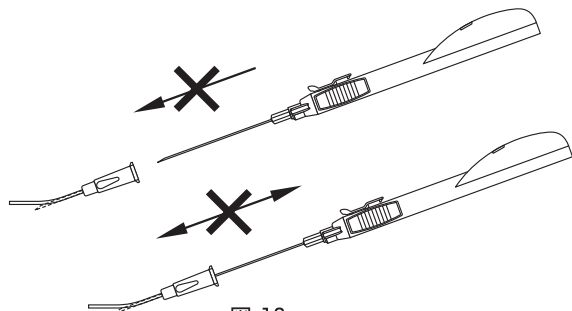


図 10

9. 内針を収納する途中で血管確保ができていないことが判明した場合は、内針とカテーテルと一緒に引き抜いて廃棄してください。
10. ボディ先端には血液が付着している場合がありますので、ボディ先端部に触れないでください。（図11参照）

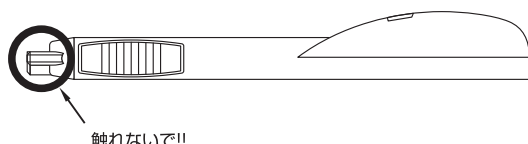


図 11

11. 接続部への血液や薬液等の付着に注意してください。〔接続部の緩み等が発生するおそれがあります。〕

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 高圧注入には使用しないこと。〔破損するおそれがある。〕
- 2) 使用中は本品の破損、接続部の緩み、漏れ、空気混入及び詰まり等について、定期的に確認すること。
- 3) カテーテルとカテーテルハブの接続部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げるような負荷を加えないよう注意すること。〔カテーテルの外れ、破損等が発生するおそれがある。〕
- 4) カテーテル留置後、カテーテル起因の静脈炎、血管外漏出が認められた場合は使用を中止すること。
- 5) カテーテル留置後、固定が不十分な場合、カテーテルのズレによる漏れや事故抜去が発生するおそれがあるので定期的に確認すること。
- 6) プラスチック製品なので、運搬、操作時には振動や衝撃を避けること。

2. 不具合・有害事象

1) 不具合

- ・カテーテルのキンク、折れ、詰まり、切断、破損
- ・カテーテルの事故抜去
- ・内針の曲がり、折れ、貫通、収納困難
- ・穿刺不全
- ・接続部の外れ、緩み、亀裂
- ・接続部／穿刺部からの漏れ

2) 有害事象

- ・神経障害
- ・静脈炎
- ・血管外漏出
- ・誤穿刺
- ・感染
- ・カテーテルの体内遺残

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと（自己認証による）。

有効期間：滅菌後3年

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

電話番号：06-6372-2331(代表)

製造

ニプロ株式会社



ニプロ株式会社